

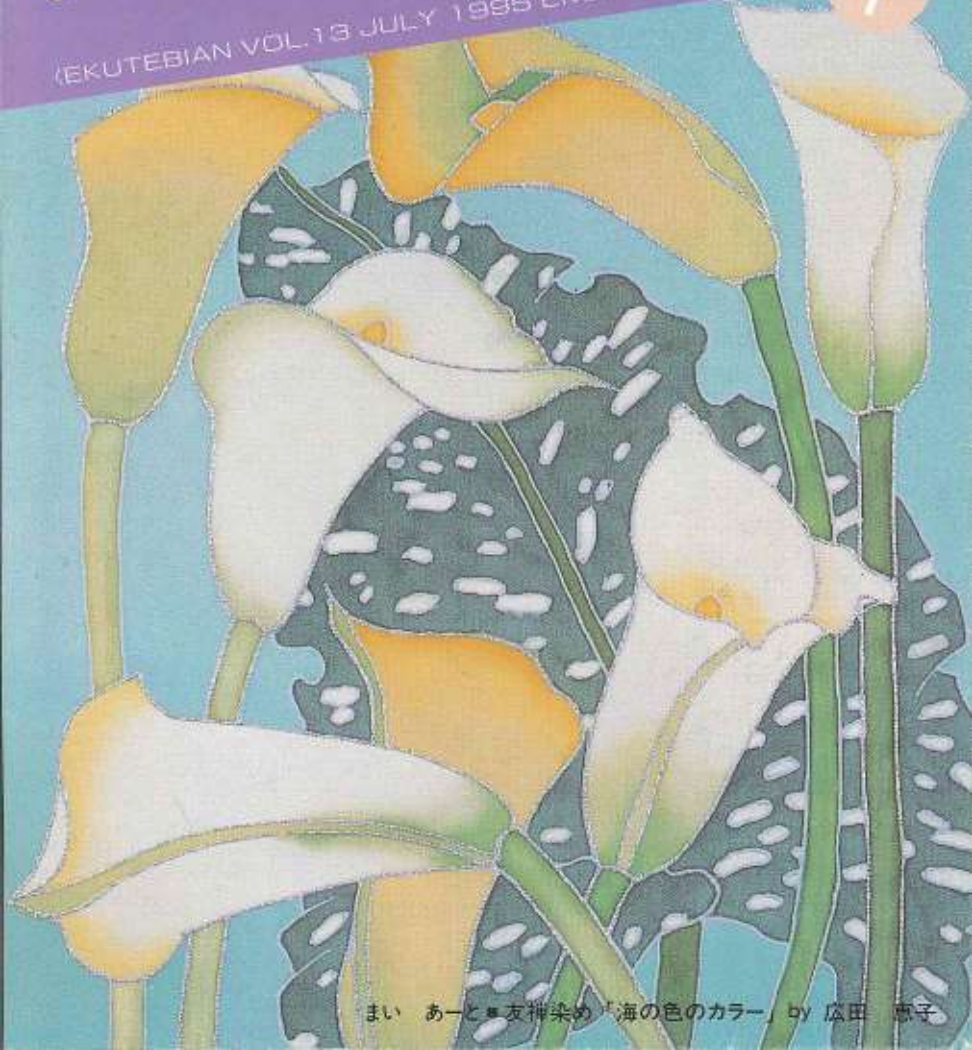
月刊

立川と語ろう 立川に生きよう

えくてびあん

7

(EKUTEBIAN VOL.13 JULY 1995 EKUTEBIAN)



まい あーと友禅染め「海の色のカラー」 by 広田 恵子



市販の教本を基に製紙をとる。実に簡単に見えるが飛行機はバランスが命。丁寧に切り、ゆがみをつけず、乾燥に一発改かけろ。飛ばすまでには中々手間がかかる。

柏木慎一さん(錦児童館)と紙飛行機づくりをたのしむ

今月は紙飛行機。ただし「折り紙」のそれではなく、競技会などでも十分に通用する紙飛行機だ。指導して下さるのは柏木慎一さん。錦児童館に勤務、同館の工作教室で実際に教え、これまでに独自の工夫を加えて、基本は重視しながらも、いわば「柏木機」とも呼ぶべき境地に達していると云えそう。気流の変化など読めるようになれば3分くらいの飛行も楽しめるとか。何回も試みるうちに段々とコツを覚えよう。立川は「飛行機」の街です。

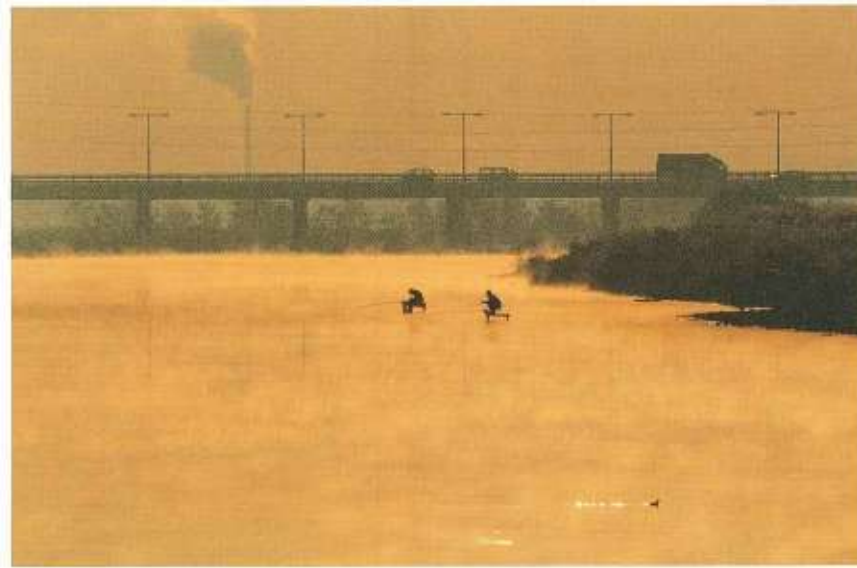
多摩川の朝

ババにセーマが流れ、ロンドンにチームズが走る。立川に多摩川の流れるのあることを、人は忘れがただが、見慣れた風景も鮮度のある眼で眺めれば、天然はそれに応じてくれる。特に早朝の多摩川は、澄んだ空気の中で、今日一日の活動を志すかのように空を映る。それは撮影者・鈴木克吉さんの生命の息吹とも拮抗しているかのようだ。



(プロフィール)

鈴木克吉。昭和28年立川生まれ。42才。建築業の傍ら、本格的に写真をはじめた17年。子供の頃から慣れ親しんだ景色を美しく撮りたいと、多摩川をテーマに進ぶ。現在も週に2~3度、季節の変わり目には毎日の様に川に足を運ぶ。過去に5回、中央公民館にて「多摩川」と題した個展を開催。奥様と娘さん2人の4人家族。柴崎町4丁目に在住。



わたしの 玉手箱

〈最終回〉柴崎町・中村武彦さんの
「ダンス・ミュージック・レコード」

レコードコレクターは少なくはないが「ダンス・ミュージック」に焦点をしばって1,500枚をゆうに超えるという。それも、今日の日本では入手不可というマニア垂涎の、このコレクター。

▶NYのレーベル「デフ・ジャム・レコーディング」のオムニバス盤。右が市販のジャケットだが、左のデザインは初盤限定のもの。入手は今や不可能に近い。



▲ナット・キング・コール。ジャズやR & Bはダンスミュージックのルーツと見えよう。

▶ホイットニー・ヒューストンの1st。国内で発売されたものと、カバーが裏表逆。

